

行政視察報告書

経済地域委員会 行政視察		平成30年7月25日（水）～7月27日（金）
視察先 及び 調査事項	唐津市	九州オルレ唐津コースについて
	九州観光推進機構	九州オルレ推進事業について
	屋久島町	屋久島の自然環境を活かした観光振興の取組みについて
	屋久島環境文化財団	屋久島環境文化村構想推進事業（里めぐり推進事業）について
I 佐賀県唐津市 九州オルレ唐津コースについて		
1 まず、はじめに「オルレ」の名称の意味と内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・「オルレ」とは、韓国・済州島で始まったもので、「通りから家に通じる狭い路地」の言葉 ・トレッキングコースとして名づけられて有名になり、済州島への観光客数が増加 ・山道や海岸線、民家の路地などを身近に感じながら、自分のペースでゆっくり楽しみながら歩くのが、オルレの魅力 ・オルレは、道に沿って、いくつかの目印が設置される ・オルレのシンボルマークであるカンセの看板と青（往路）、赤（復路）の矢印のリボンを目印に進む、ただし、どちらから出発しても良い 		
2 唐津市の概要と歴史文化、オルレ導入の目的		
<p>唐津市は、佐賀県の西北部に位置し、古来から大陸との交流が盛んに行われ、朝鮮半島や中国大陸からの様々な文化が取り入れられ、全国に伝わったと考えられる。</p> <p>また、中世に活躍した豪族たちの史跡も数多く、特に豊臣秀吉の朝鮮出兵の前線基地となった特別史跡名護屋城跡並びに陣屋が在り、江戸時代になって築城された唐津城の城下町も市中心部に残っている。唐津市の年間観光入込客数は約70万人、より多くの観光客の入込、また、市内の宿泊者を増加させるため、体験型観光、滞在型観光として、オルレコースの認定を図る。</p>		
3 オルレコース認定により期待される効果		
<ul style="list-style-type: none"> ・オルレブランドを活用することにより、韓国からの誘客促進 ・オルレに参加することで滞在時間が延長し、観光消費額が増加 ・国内観光客向けの新たな着地型観光の推進 		

4	オルレ唐津コース認定までの経緯について
	自治体より県を通じて、九州全域オルレコース認定を管轄する（一社）九州観光推進機構のコースに応募する。その後、九州観光推進機構の九州オルレ認定地域協議会で一次選定、済州オルレ（韓国）の二次選定を経て、要件を満たしていると認められれば認定される。
	コースの要件として、「道自体を楽しむことができること」、「舗装道をできるだけ避けること」、「地域特有の景色や歴史があること」、「地域の協力体制があること」、これらの条件を満たす必要がある。
5	コース認定による観光面での効果及び利用者数
	唐津コース来訪者（平成25年～平成30年3月）
	日本人 約8,800人 韓国人 約4,100人 合計 約12,900人
	平成29年度
	利用者数 約2,700人 うち、外国人 約1,000人
	経済効果 年間 約600万円 利用者1人当り消費額 2,065円
6	今後の課題
	・リピーターは獲得できているが、今後、さらに認知度を上げ、新規の客を獲得する取組が必要
	・オルレ利用者の宿泊率の向上および消費額増加を図る取り組み
	・唐津市内オルレコース以外の九州オルレコース（現在、九州全域20ヶ所）と連携し、旅行者への商品造成の促進
II	（一社）九州観光推進機構 九州オルレ推進事業の取組みについて
1	一般社団法人九州観光推進機構の構成は、
	九州地方知事会 九州経済連合会、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会が、「九州はひとつ」の理念のもと、官民一体で具体的な施策を検討し、実践に取り組むため組織されたもの
	2005年に設立、現在14年目
2	九州観光戦略の概要
	○ 第1期計画期間 2005年度～2013年度を「はじめて九州が一体となって取り組んだ10年」として
	・主な成果 （1）九州観光の魅力向上 （2）海外からの誘客拡大

(3) 国内大都市圏からの誘客拡大 (4) 有事への一体的対応
○ 第2期計画期間 2014年度～2023年度を 「観光産業を九州の基幹産業とする10年」として
・必須対策 (1) 訪日インバウンドの飛躍的拡大
(2) 推進組織の体制、人材、財源の強化
○ 観光産業の売上額目標
2017年 観光産業売上額2,7兆円を
2023年 観光産業売上額目標4兆円に
・あらゆる観光戦略に取組み、発案された一つが、九州オルレ推進事業です。 九州オルレは、「済州オルレ」の姉妹版として、九州の自然や文化、温泉など五感で楽しむためのトレッキングコースです。
また、宿泊施設や温泉をはじめ、九州全域の観光地を組み合わせることにより、高付加価値な九州トレッキングとして、イメージ定着を図ることがねらいです。
・団体名称 九州オルレ認定地域協議会、(一社)九州観光推進機構
○ 九州オルレの事業概要
・九州オルレ認定までの審査 九州観光推進機構から各県を通じてオルレコース募集→九州観光戦略機構および九州オルレ認定地域協議会審査→済州オルレ審査 以上で合格地域を認定(平成30年度も申請有り)
・コースは、10km～最長約15km程度 所要時間は、約4～5時間
・九州全域の認定コース 21コース(平成30年7月31日現在)
福岡県5コース 佐賀県3コース 長崎県2コース 熊本県3コース 大分県4コース 宮崎県1コース 鹿児島県3コース
各コースの運営は、市町村で構成する協議会で行う。
・九州オルレ全コース(21コース)を踏破した方には、「九州オルレ踏破認定」の認定証と記念品が贈られます。
7月末日全コース踏破者197名 うち、日本人147名 韓国人50名 オルレ訪問者(2012.3～2017.3)約30万人
○ 九州オルレの成果
・日韓で200回以上の報道、九州ブランド浸透に貢献
・新たな観光資源開拓の実現
・市町村を超えて連携
・国を超えて民間レベルでの交流が促進
・新たな賑わいや新たな雇用を生み出す

○ 今後の課題
・韓国、日本での宣伝と共に他の外国へのPR
・利用者1人あたりの消費単価が1,000円～2,000円で、消費単価増のため、今後、宿泊滞在者の増加策を図ることが必要
Ⅲ 鹿児島県屋久島町
屋久島の自然環境を活かした観光振興の取組みについて
1 概要
屋久島町は、島全体の面積504.29Km ² 人口12,585人
平成5年には、太古の原生林や亜熱帯から冷温帯に及ぶ植生の垂直分布など、屋久島の自然環境や自然資源が世界的な評価を受け、日本初の世界自然遺産地域に登録される。
登録面積は、島の21%の10,747haで、屋久島の象徴であるこの地域の屋久杉は、独特な外観、過酷な自然条件での成長過程や長寿で知られています。日本政府は、平成29年、屋久杉の太古の森を屋久杉原生林国指定特別天然記念物に指定しました。
2 観光の現状と取組み
屋久島は、観光産業を最重要産業と位置づけております。世界自然遺産地域指定を受けた平成5年、観光客入込者数は約21万人で、年々増加し、平成19年には、40万人を超えましたが、後は、減少の一途で、平成25年には30万人を下回りました。このため、平成27年に屋久島町観光基本計画を策定、実施に向け取り組んでいます。
3 屋久島町観光基本計画（一部抜粋）
〔計画策定の目的〕
観光産業を地域の総合的戦略産業と位置づけ、観光推進により、第1次産業をはじめ、すべての産業と連携を強化し、町全体の活性化を図る。
〔計画の期間〕
平成28年度から平成37年度までの10年間を基本的計画期間とする。
4 屋久島町の観光の課題
・潜在的魅力の発掘、人材育成とリピーターの確保
・地域資源（ヒト・モノ・カネ）のネットワーク化と循環の仕組みづくり

<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全、快適な基盤環境の整備と情報発信 ・地域の誇りと愛着を持った「おもてなし」の推進 ・新たな枠組みによる推進体制の構築と広域的な連携強化 ・屋久島と口永良部島の連携強化による新たな観光魅力の発信
<p>※ 観光入込客数の目標</p> <p>目標年（平成32年度）350,000人（平成26年度284,684人） 入込み客60,000人増加で、約30億円の経済効果 （年間経済効果目標35万人×1人当り消費額50,000円 合計175億円）</p>
<p>5 重点的に取り組む事業</p> <p>○ 世界自然遺産の保全と活用を基本とした山岳観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自のルールや仕組みづくり <p>利用券の発行</p> <p>屋久島山岳部保全基金 島内バス利用者1人500円</p> <p>屋久島山岳部環境保全協力金</p> <p>日帰り登山者1人1,000円 宿泊登山者1人2,000円</p> <p>○ 世界とつながるゲートウェイ機能の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港や港の機能とおもてなし活動の展開 <p>○ 観光立町を推進する屋久島町観光推進会議の発足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、民間、町民、関係機関が一体となり、観光地環境に関する合意形成を図る
<p>6 今後の重要課題</p> <p>○ 屋久島は、平成20年まで、し尿の現地埋立て埋設処理をしていたが、登山者の増加で自然環境や島民の水源までも悪影響がおよび、後にポリタンクにて人力搬出し、し尿処理施設で処理、現在もこの方法をとっている。未搬出し尿は、現地でバケツにストックしている状況、山岳のし尿処理が大きな課題</p>
<p>IV （公財）屋久島環境文化財団（県より派遣職員1名）</p> <p>屋久島環境文化村構想推進事業（里めぐり推進事業）について</p> <p>1 屋久島環境文化構想とは、</p> <p>国際的にも学術的評価の高い自然環境と、自然を損なうことなく何千年にもわたって積み上げられてきた屋久島特有の生活文化を戦略的なイメージとして掲げ、学習や研究によって、その価値を見直すことを通じて、屋久島と人とが共生する屋久</p>

島ならではの個性的な地域づくりの試み
2 (公財) 屋久島環境文化財団とは、 屋久島環境文化構想を推進する中心的な組織として、平成5年3月に鹿児島県と屋久島町の出損により設立
3 屋久島環境文化村構想推進事業とは、 「環境学習」、「環境形成」、「ネットワーク形成」、「屋久島地域づくり推進」、「国際交流」の五つの事業推進
4 屋久島「里めぐり」推進事業（屋久島地域づくり推進） 平成23年10月 屋久島里めぐり推進協議会設立 構成団体〔集落・屋久島町・屋久島環境文化財団〕
○「里めぐり」について
・内容 屋久島を訪れる方々に、地元の歴史、文化、自然、産業などの集落自慢を地元の語り部のガイドにより案内する。
・現在加入集落 7集落（屋久島全域で）
・参加料 1人1,500円(小学生以上) うち、集落収入1,350円
・定員 各集落20名程度（最小催行人数1人） ・所要時間 2～3時間
・各集落の差は生じるが、案内とともに食事プランや収穫体験も可能（料金別途）
・参加者実績 平成 25年度282人 26年度445人 27年度677人 28年度624人 29年度787人
○ 効果
・町内集落の方々と連携し、さまざまな地域資源の掘り起こし
・観光地では、あまり体験できない地元の人々とのふれあいの魅力
・全国の離島の地域が、人口減少に悩まされている状況の中で、若者も島に帰り、国勢調査では、13,000人前後の人口推移となっている。 (屋久島全土の観光振興の効果と考えられる。)
以上
平成30年8月10日 松本市議会議長 上 條 俊 道 様
経済地域委員会 委員 忠 地 義 光